



▲ガイドはブルーのスタッフジャンパーが目印です。  
問い合わせは、多久市観光協会（☎74-2502）

▶ガイドが語る聖廟の歴史に  
関心を高める市外からの観  
光客



## 先人の知恵や起源など心から心へ伝えたい

### 観光ボランティアガイド始動

多久聖廟や西溪公園などを観光客に案内する『孔子の里観光ボランティアガイド』が10月4日、活動を始めました。ガイドは、市の呼びかけに応え、今年春から10回の研修会と数回の実地訓練を重ねた12人の有志。毎週土曜日午前10時から午後3時までと、付近でイベント開催の時などが活動日でジュニアガイドと両輪となったり、さらに詳しく習得した説明で、観光客に多久の魅力を伝えます。江打正敏会長は「聖廟には、案内板や石碑などがあっても、人を介して言葉を加えたほうが、お客様の心に魅力が届き、たくさんの人へとつながる。初日の案内だけでも、その手応えを感じたし、お客様の興味は先人の知恵や起源。そこには、論語や道徳、作法などの教えがあり、私達のガイドで心を充たす場所にしてほしい」と話し、聖廟や多久のファン拡大に期待。佐賀市内から訪れた観光客は「私みたいに学習もしないで来た者は、ただ見ても何も残らず帰ってしまうが、ガイドのおかげで深く知ることができた」と、ガイドに感謝されていました。

## 手をかけて創った味は格別。また作りたい！

### 親子でそばうち体験

10月4日、市内に住む小学生の親子15組・45人が多久公民館で“そばうち体験”をしました。これは食育事業の一貫として市が『親子で楽しもういろいろに挑戦』と、募集した料理教室の1回目。講師には、さが“食と農”絆づくりプロジェクトのふるさと先生、桑原よしのさんを招きました。5つのグループに分かれ、分量のはかり方、混ぜる、こねる、伸ばす、切る、茹でるの工程を、普段使ったことのない大きな鉢や麺台、麺棒、そば切り包丁などの道具を使って、手順よく作りました。ヨモギ天そばにして、打ちたてを味わった参加者は「手をかけて作るのは大変だけど、素材も安心でおいしさは格別。先生のおかげで、家庭の味を知り、普段できない貴重な体験が親子でできた。また作ってみたい」などと話し、満足していました。



▲耳たぶの柔らかさになるまで、丸めたり、ひっくり返したり、右に左に、体重をかけるようにこね、できた生地は大きな麺棒に巻きつけながら伸ばし、そば切り包丁で切りました



▶審査牛を出品し、競技会成功への尽力に感謝状を贈られた市内を主とした生産者のみなさん

▶育成牛の審査風景



## 市内の子牛生産者らも審査会をバックアップ

### 日本学校農業クラブ全国大会『佐賀大会』

10月22、23の両日、第59回日本学校農業クラブ全国大会が佐賀県内の農業高校などを会場に行われました。大会には、農業教科を学ぶ高校生や教職員ら約6500人が全国から参加。『農業高校生の甲子園』とも言われ、昭和25年に開催以来、佐賀県での大会は初めてで、発表や競技会、意見交換会などで日頃の学習や活動の成果を競い、技術の向上や交流を図りました。その中、有名ブランド『佐賀牛』の生産県として取り入れられた公開種目の家畜審査競技会は、市内にあるJASが畜産センターで開催。県予選を勝ち抜いた87人が優れた和牛（肉用種雌の育成牛と子牛2種）を見抜く体型審査に臨みました。審査牛出品で参加した倉富隆さん（東多久町）は「農業の将来を担う高校生たちの真剣に取り組む姿を見て、頼もしい若い力を感じた」と話されました。